

経済史概論Ⅳ (Modern Economic HistoryⅣ)

科目ナンバリング ECH-104

選択必修 2単位

野澤 大二

1. 授業の概要(ねらい)

TAFP(帝京アジア交流フロンラム)留学生向けの科目で、原則として英語を使用言語とします。

この授業では、主に14世紀から20世紀までを対象として、国と国・地域と地域などとの相互の繋がりと影響に主眼を置いて、経済史をより国際的な視点から学びます。その際、必ずしも西ヨーロッパを中心とした国民国家体制を前提とはせず、家族・地域・都市・企業あるいは信仰の異なる集団間での経済活動を視野に入れ、よりグローバルな視点から、ヒト・モノ・カネ・情報の移動を考えていきます。経済的に一体化した今日の世界をよりよく理解するうえでも、またこれからの地域社会・国際社会・グローバルな社会を見通すうえでも、そのための手がかりとなる歴史的な知識を身に付けます。

2. 授業の到達目標

- ① 経済史とはなにかを説明できる。
- ② 経済的に不均衡な世界の成り立ちを、その歴史的背景から説明できる。
- ③ 過去や歴史を知ることによって、現在生きている状況を相対化し、複眼的な思考を養う。

3. 成績評価の方法および基準

平常点:出席、授業への積極的な参加、授業内課題(30%);期末試験(70%)

課題や試験の内容については、授業の様子を見ただけで判断します。

4. 教科書・参考文献

参考文献

- Kenneth Pomeranz and Steven Topik, The World That Trade Created : Society, Culture, and the World Economy, 1400 to the Present, Forth Edition, (Routledge, 2018)
- Frank Trentmann, Empire of Things : How We Became a World of Consumers, from the 15th century to the 21st, (Penguin, 2016)
- Immanuel Wallerstein, The Modern World-System. With a new prologue, (University of California Press, 2011), 3 vols. Originally published between 1974-1989.

5. 準備学修の内容

授業で指定する予習資料を事前に必ず読んでくること。

現在、「グローバル」な視点から書かれた歴史書が、一般向けにも多く刊行されています。書店に立ち寄る機会があれば、ぜひ関連書棚を眺めてみてください。もちろんネット上で閲覧できる書評なども活用してください。

6. その他履修上の注意事項

7. 授業内容

- | | |
|--------|--------------------|
| 【第1回】 | イントロダクション |
| 【第2回】 | 歴史学とはなにか、経済史とはなにか? |
| 【第3回】 | 授業内課題① |
| 【第4回】 | 暴力の役割① |
| 【第5回】 | 暴力の役割② |
| 【第6回】 | 暴力の役割③ |
| 【第7回】 | 授業内課題② |
| 【第8回】 | 制度と慣行① |
| 【第9回】 | 制度と慣行② |
| 【第10回】 | 制度と慣行③ |
| 【第11回】 | 授業内課題③ |
| 【第12回】 | 工業化のプロセス① |
| 【第13回】 | 工業化のプロセス② |
| 【第14回】 | 工業化のプロセス③ |
| 【第15回】 | まとめ |